

桜っ子の学力向上プラン

【長崎市第五次総合計画】基本方針G 私たちは「未来を創る人を育み、だれもが学び、楽しみ続けられるまち」をめざします
基本施策G 1 長崎のまちを愛し、新たな時代を生き抜く子どもを育みます
G 1－1 「確かな学力」の向上を図ります

【学校教育目標】 自ら学び 自ら考え 自ら行う

【めざす子ども像】よく考え工夫する子ども（自立）助け合い励まし合う子ども（共生）明るくたくましい子ども（健康）

【研究主題】 子どもの姿を基にして子どもも教員も学ぶ意味・楽しさを感じるこのことのできる研究

《 桜っ子の課題（5・6年生学力調査の結果から）と目標数値 》			
【国語科】 文書の要旨や話題の中心を捉える力、集めた情報を分類したり関係付けたりしながら伝え合う内容を検討する力に課題がみられる。 △目的に応じて情報を選んだり、選んだ情報をどう伝えるかを考えたりする学習の経験不足。 △集めた情報やメモの整理分析する力が十分ではない。 △話題の中心や文章の要旨を捉える力が十分ではない。	目標数値	【算数科】 データの活用、図形の領域で課題が見られる。 △目的に応じてデータを収集し、その判断理由を説明（記述）する力が十分ではない。 △もとになる数のいくつかの理解が十分ではない。 △図形の性質や特徴の理解が十分でない。 △題意を捉えて答えることができていない。	目標数値
	正答率75%		正答率70%
	正答率70%		正答率70%
	正答率70%		正答率70%

基礎基本の徹底 ○漢字の書き取り力向上 ・スキルの使い方、練習方法の統一 →桜町小ユニバーサル化（2学期末に検証） ○文章を読む力	思考力・表現力等の育成 ○授業改善 ・指導事項、身に付けたい資質能力の整理 ・各教科の見方・考え方を明確にした授業改善	学習意欲の向上 ○自ら学ぶ態度の育成 ・学習方法の定着 ・振り返りの書き方と生かし方 ○協働的な学習の効果を感じられる授業構築	教師の指導力向上 ○校内研究の充実 ・一人一授業を基本とし、学年でPDCAサイクルを意識した授業研究を行う。 ・ICT教育の充実と効果的な活用の検討
--	---	--	--

学年の課題(国語科・算数科)	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
	・促音、拗音、長音など、読めるが書けない。読めない児童も少数ではあるがいる。 ・設問の内容を正しく読み取る力が十分でない。 ・話を聞くことが十分でない。	・助詞の理解が不十分であり、まとまりのある文を書くことが苦手な子がいる。 ・自分の思いや考えを書くことが苦手である。 ・漢字を整えて書いたり、書き順を正しく理解したりできていない。	・文字、言葉の習得ができていない。 ・語彙力が不足している。 ・文章の読み取りができていない。 ・条件作文などの作文を書くことが苦手である。 ・文章を書く習慣が不足している。	・語彙力が低く、文章の意味を理解できていない。 ・自分の考えをまとめながら書くことに対する苦手意識がある。 ・中心となる語や文を見つけて要約することが苦手である。	・話の中心が明確になるように話の構成を考えることが苦手な子が多い。 ・言葉のつながりを捉え、適切に漢字や文章を書くことができない。 ・話の要点を捉えながら聞くことができない子が多い。 ・目的を明確にして読み取ったり、条件に合わせて自分の考えを書いたりすることが苦手な子が多い。	・複数の資料を分類したり、関係付けたりすることが苦手である。 ・目的に応じて、文章と図表などを結び付け、必要な情報を見つけることができない。
	・文章問題の文意が理解できず、立式することが難しい。また、答えの単位を間違えることがある。 ・計算ミスが多い。	・文章問題の題意を理解して、式を立て解答を導くことができない。 ・長さ、水のかさ等、量の理解が身に付いていない。 ・時間と時刻を正しく理解していない。 ・自分の考えを相手の分かりやすく伝えるのが苦手である。	・計算力が弱い ・文章問題の題意を理解して、式を立て解答を導くことができない。 ・文章をよく読まない。 ・自分の考えをうまく説明できない。	・学習してすぐの計算はできるが、その後の定着が難しい。 ・文章問題の場面把握ができていない。 ・思考力が低く、活用問題などになると、既習事項を生かすことができない。 ・単位換算が苦手である。 ・量感をつかめていない。	・概数や割合などの知識を生活の中で考えたり生かしたりすることが苦手。 ・式に表したり、式に表されたりしている関係を考察する力が十分ではない。 ・目的に応じて、データの特徴を読み取る力が十分ではない。 ・問題にじっくり考えたり見直したり、分析することが苦手。	・図形の面積の求め方を式や言葉を用いて、記述することが苦手である。 ・目的に応じてデータを収集し、分類整理し、データの特徴を読み取れない。 ・共通する単位分数のいくつかを数や言葉を用いて記述できない。
	家庭学習の習慣付けを行う。		家庭学習の定着と共に、自主的な学習に取り組む習慣付けを行う。		自身の課題に応じて計画を立てて自主学習に取り組むことができるようにする。	
	・視写に取り組ませ、正しい文字を書くことができる機会を設ける。 ・設問に合った答え方を身に付けるために、練習プリントに定期的に取り組ませる。 ・類似のプリントを用いて練習させることにより、正しく読み取る力の定着を図る。	・漢字の練習と漢字小テストを繰り返し行い、定着を図る。 ・キュビナを活用して書き順を正確に理解させる。 ・分かったことや気付いたことを文にまとめる。 ・語彙を増やすため、「ことばのたからばこ」から言葉を指定して短作文を書く。 ・週末に日記を書くことで文章を書く習慣をつける。	・漢字、言葉の習得を図る。（毎時間漢字5問テストの実施） ・音読、読書の推進をする。 ・自分の考えを表現（話す、書く）する機会を確保する。 ・主語・述語を明確にして、あいまいな表現ではなく、具体的に表現させる。 ・順序や接続を表す言葉を用いて表現する。 ・キーワードや条件、根拠を明確に示して、表現させる。	・家庭での漢字学習のやり方を工夫させる。 ・国語辞典などを用いての意味調べを自主学習などで繰り返し行わせる。 ・授業の中で自分の考えを書く機会を確保する。 ・授業の中で、なぜそう考えたのが叙述から理由を明確にさせる。 ・重要な語や文に印をつけさせ、要約への手がかりとする。 ・相手に正しく伝わるように日常会話を指導する。 ・漢字練習の取り組み方を4～6年生でそろえる。	・5W1Hを意識して話す指導を行う。 ・漢字練習の取り組み方を4～6年生でそろえる。 ・相手意識をもって理由や事例を選んだり、選んだものが分かりやすいかをグループ検討したりする協働的な学びの場を設ける。	・5W1Hを意識して話す指導を行う。 ・漢字練習の取り組み方を4～6年生でそろえる。 ・相手意識をもって理由や経験を書く活動を取り入れて、推敲する場面では、グループで読み直しをするなど協働的な学びの場をつくる。
	・文章問題では、キーワードに着目させ、正しく立式することができるように、定期的に文章問題のプリントに取り組ませる。 ・時間を決め、繰り返し計算問題に取り組ませ、計算の習熟を図る。 ・具体物や半具体物を用いて、理解を促す。	・キュビナやプリント学習を積極的に取り入れて基本的な計算力の向上を図る。 ・自分の考えを絵や図で表すことができるように、ノート指導を徹底する。 ・文章問題を読むときに、分かっていることや聞かれていることに線を引かせ、問題の意味を理解する。	・文章量の目安や、具体的な書き方のモデルを示す。 ・文章問題から、わかっていることを見付けさせる。 ・文章問題を線分図に表す。 ・文章問題から立式させる。 ・問題場面を理解してから立式し答えの見直しをする。 ・基本的な計算力の向上を図る。（毎時間計算50問テストの実施） ・まとめと振り返りを自力で書く。	・文章問題では、分かっていることと聞かれていることに印や色分けなどをして、解決への見通しをもたせる。 ・キュビナや読み上げ算数を取り入れて基礎の定着を図る。 ・必要に応じて、身近なものに置き換えたり、具体物操作を行ったりして量感を養う。	・統計的な問題解決活動を教科横断的に経験させる。 ・数直線や線分図等で考えを表す指導を充実させる。 ・自分の考えを見直したり、よりよい方法を考えたりすることを主体的に行えるように、協働的な学びの場を設ける。	・立式の際は、根拠を言葉や文で説明させる。 ・チャレンジタイムで計算と読解・記述に取り組ませる。 ・授業で、問題に対する自分の考えを文章で説明する機会を増やす。

☆学校☆
○学習環境の整備 ○学習規律の定着 ○学力調査の実施・分析・改善策
○あじさいスタンダードなどを活用した授業改善 ○効果的なICTの活用の検討

☆家庭☆
○基本的な生活習慣づくり（早寝、早起き、朝ご飯）
○家庭学習（宿題・自主学習）の定着

☆地域☆
○幼保小連携、小中連携、その他関係機関との連携 ○地域行事への参加 ○地域人材の活用
○学校サポーターの活用 ○SST スポーツ教室